

菅波 茂代 表

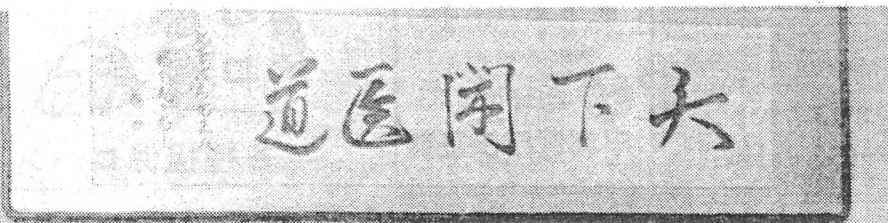
阪神大震災では多くのボランティアが活動した。今年はボランティア元年ともいわれた。日本人にとって、ボランティア活動がこれまでになく身近なものになった年でもあった。その第一人者である「AMDA(アジア医師連絡協議会)」の代表 菅波茂代氏にボランティア活動について聞いた。

阪神大震災で、すぐに多数の医療関係ボランティアを送り込んだのがAMDAだった。本部事務局が岡山にあるという地の利もあった。後方支援も豊い神戸と岡山をヒストン輸送した。

「阪神大震災を変わったことは、これまでボランティア希望論だったものが、ボランティアが実在するという実在論に変わったこと。自信と希望を持った。AMDAは神戸で1カ月間の医療救済活動を行った。終わりのころには、被害の大きかった長田地区でも、病院と診療所の外来再開が50%以上になり、当初の目的を達した。」



Leader's



阪神大震災のボランティアで自信と希望もつ

菅波さんは岡山で病院を経営しながらのボランティア活動。「いつも病院にいるというわけではないので、患者さんは2割減りました」「でも患者さんに安心していただけるようになった上での活動を理解してもらうしかない」と苦笑する。地方にAMDAの本部を置くことのメリットはいくつかある。地域の活性化、地域起しに因りできる。AMDAに入る人は「親子、夫婦、家族関係などの逃げられない人間関係が、まっさいっている人」でな

AMDAの誕生は、84年8月だった。失敗からのスタートだった。カンボジア難民が出た時に、何かできないかと、出かけたもののうまくいかなかったもの。「具体的な情報がなかった」「ボランティア活動にも業界がある」とを知った。自分たちが、ボランティア活動を続けるために、どうすればいいか。実績も経験もなかったAMDAは、まっさいやるという道を選んだ。まっさいに、現地に飛び込んで行くというやり方だった。

そのAMDAが世界的に

「平和へのパートナー」として戦争を起しにくくする

ければいけない」と。幸福な人でなければならぬ」とも。「不幸探をやろう」という人はいた。た笑顔を減まるという。家族の写真を説明できるような人が望ましい。「私は、いつも女性の自信をする」と笑う。

医心何心ボランナマア

ヒューマニズムとは参加する。H。もうめられない。貴をもらった。自分らがってんにいるのだから。パートナーシップしてシステムをのをして。スムーズに対応できるように努力しています。21世紀のボランティア活動は「平和」がキーワードになる。平和へのパートナーとしての人道援助、相互理解、相互扶助を大切にしている。そうする中で、戦争が起さなくならない。その中心にAMDAはいる。

サハリン地震でまっ先に行動AMD Aが認められるように

有名になったのは、サハリン地震だった。その際、8人が先鋒隊の調査隊としてまっさいに飛び込んで行った。日本船舶振興会がこれを資金援助した。それをCNNテレビが全世界にAMDAの活躍を放送した。これまでの日本のボランティア活動は、顔が見えない」と言われていた。初めてAMDAの活動で顔が見えるようになった。AMDAが動くには5つの原則がある。たまたまにも活動するのではない。①自然災害及び人的災害の時の100人以上の死者が見込まれる②メディアで報道されたもの③アジア太平洋緊急機構の活動可能な時④AMDAが動くとて効果がある⑤確信できる時」ということを決めた。